

(有)静岡健康企画 ことぶき薬局 TEL055(977)6024 たまち薬局 TEL054(251)1678  
ひまわり薬局 TEL053(463)4312 みかん薬局 TEL053(584)2230 いちご薬局 TEL055(946)6430

## 血液検査データについて②

5月号では一般的な血液検査項目について解説しました。今回は血液検査項目の中でも診断に利用されることが多い項目について解説してきたいと思います。

また、よく健康診断でも目にする尿検査についても一部触れたいと思います。



### 【血液凝固】

項目	検査項目の意味
PT-INR (プロトロン時間)	血液の固まりやすさをみる検査です。決められた治療目標値内に入っていれば、血栓も出来にくく出血の副作用も起きにくいことになります。

PT-INR を元に薬の量を調節する代表的な薬：ワーファリン錠

### 【炎症反応】

CRP (C-反応性蛋白)	体の中で炎症や感染等が起こると肝臓で作られます。この検査で病気を特定することはできませんが、病気の進行度や重症度、経過等を知る上で大切な指標となります。
------------------	--

### 【電解質】

Na (ナトリウム)	体の水分を調節する働きがあります。Naが多いと、これを薄める為に体内に水がたまってしまい、むくみや高血圧の原因になります。高値では、塩分の取りすぎや脱水症等が疑われます。低値では、食事量低下や甲状腺や心臓の疾患等が疑われます。
K (カリウム)	Naの排泄を促し、神経や筋肉の働きを調節しています。Kが低いと神経がマヒし、高すぎると不整脈等心臓に影響が出る恐れがあります。高値では、野菜や果物の摂りすぎや腎疾患等が考えられます。たんぱく質摂取不足や利尿薬の使用では低値を示す事があります。
Ca (カルシウム)	体内に最も多く含まれるミネラルです。骨や歯の形成、神経刺激の伝達、血液を固める働きがあります。高値では、骨以外の場所にCaが沈着している可能性があり、喉の渇きや吐気が出る場合があります。低値では、骨がもろくなったり筋肉のこわばりや痛みが出る場合があります。
Mg (マグネシウム)	体内で半分以上がCaと共に骨や歯に、残りは筋肉や神経細胞等に存在しています。更に筋肉の収縮、神経の情報伝達にも関わる必要不可欠なミネラルです。高値では、マグネシウム薬投与・腎疾患等、低値では利尿剤使用・急性膵炎等が疑われます。
Fe (血清鉄)	赤血球の酸素運搬機能を支えるヘモグロビンは、血液中の鉄を材料に合成されます。消化管等から出血していたり、食料からの鉄分不足により低値を示し、貧血の指標となります。
IP (無機リン)	体内で2番目に多く含まれるミネラルです。体内では85%が骨に存在し、Caと結合しています。副甲状腺機能やビタミンD過不足を判断する為に検査されます。
フェリチン	鉄の貯蔵庫の役割を持っていて、体内に鉄がどの位あるかを反映することができます。

## 【リウマチ】

RF (リウマチ因子)	リウマチの患者さんの約70%以上が高値を示します。しかし、関節リウマチ以外の膠原病やその他の疾患でも高値を示すことがあり、また特別疾患がない人の数%・高齢者の約10%でも高値を示すため、これだけで関節リウマチと判断されることはありません。
MMP-3 (マトリックスメトリプロセインゼン3)	関節の軟骨成分を分解するたんぱく質です。基準値以上だと、滑膜に炎症が起こっている可能性があります。
抗CCP抗体	炎症を起こした滑膜にあるたんぱく質に対する自己抗体です。関節リウマチに特異的に反応し、早期発見に役立ちます。

※滑膜：関節を包んでいる膜のこと。滑膜から関節液が分泌されることで関節がスムーズに動かします。

※自己抗体：自分の身体に元々ある組織を攻撃してしまう抗体のこと。

## 【膵臓】

AMY (アミラーゼ)	主に膵臓と唾液腺から分泌される酵素の1種で、炭水化物やタンパク質、脂肪の消化を助ける働きがあります。値が高くなると、膵臓や唾液腺に異常を起こしている場合があります。
----------------	--

## 【筋肉】

CK (クレアチンキナーゼ)	筋肉に大量に存在している酵素です。エネルギー供給の役割があります。激しい運動や肉体的疲労等で筋肉が傷つくと血液中に放出されるので、数値が上がることがあります。心疾患等でも値が高くなることがあります。
-------------------	---

## 【心臓】

NT-PROBNP	心臓を守るために、心臓（特に心室）から分泌されるホルモンです。心臓の機能が低下して心臓への負担が大きいほど多く分泌されて数値が高くなります。
-----------	--

## 【甲状腺機能】

TSH (甲状腺刺激ホルモン)	脳から分泌され、甲状腺からの甲状腺ホルモンの分泌を調整する作用があります。高値の場合は甲状腺機能低下症、低値の場合は甲状腺機能亢進症の疑いがあります。
FT <sub>4</sub> (遊離トリヨードサイロニン)	甲状腺ホルモンのひとつで、甲状腺刺激ホルモン(TSH)の刺激を受けて甲状腺から分泌されます。低値・高値の場合は甲状腺の異常が考えられます。また、甲状腺疾患の治療経過・再発の判定にも用いられます。
FT <sub>3</sub> (遊離サイロニン)	

※甲状腺ホルモンには、体の発育を促進し、新陳代謝を盛んにする働きがあります。ホルモンのバランスが崩れると体調が崩れ、多すぎると甲状腺機能亢進症、少なすぎると甲状腺機能低下症の疑いがあります。

## 【尿検査】

尿潜血	試験紙を使って、目に見えないわずかの血尿を検出する検査です。感染症・筋肉の損傷・膀胱炎等で陽性を示す事があります。検査結果を正しく出す為にも、採尿前の数時間は筋肉に負担をかけるような激しい運動は控えましょう。
尿糖	試験紙を用いて、尿中に糖が出ていないかを調べる検査です。陽性の場合には糖尿病も疑われるので、血糖検査も行い更に調べていくことがあります。尿中にビタミンCが大量に出ていると検査値にずれが出る可能性があるため、ビタミンCのサプリメントを摂っている方は2~3日前から服用を中止した方が良いとされています。
尿沈渣	顕微鏡を用いて、尿中の赤血球や白血球等の細胞や結晶、細菌を観察することで、腎臓の疾患等の病状を把握することができる検査です。

★ご質問がございましたら、お気軽にご相談下さい★

文責：宮澤